つかめ未来！

# 静岡大成高校2年生　校内就職体験実施報告

静岡大成中・高等学校　進路部　部長　林　由明

本校では、生徒の主体的な進路決定を促すべく、様々な進路行事を実施している。例えば、中学生に向けた高校入試ガイダンスや高校生に向けた入試形態の各種説明会はもちろん、新入生に向けたコミュニケーションガイダンス、OBOG座談会、進路部教員による各種講話など、様々な角度から進路について考える機会を充実させている。

今回はその中でも、毎年高校2年生に向けて行っている就職体験会について紹介したい。校内に様々な業種の企業を招き、生徒は各ブースで自分の希望する仕事の体験ができるというものだ。前回は18社もの企業にお越しいただき、生徒たちはそれぞれの進路に合った業種の体験を行った。

求職者の減少により、企業の採用意欲の高まる中、このようなイベントは企業からも好評を博している。そのような中で生徒たちは、自分に合った業種を見極めるだけでなく、企業の社風や求める人物像、仕事のやりがいなどを肌で感じることができる。

今回の体験内容のひとつとして、熱海にある「ホテル貫一」のブースを紹介したい。新型コロナウイルスの流行が落ち着きをみせ観光への意欲が高まるとともに、観光業の求人も増加傾向にある。「ホテル貫一」のブースで生徒たちは主に料理の配膳の仕方を体験した。料理長の方、仲居の方からの説明を真剣に聞き、少し緊張しながらも慎重に配膳を行った。また料理の細かな説明も暗記し、お客様に見立てた

体験者に対し丁寧に説明を行った。普段できない貴重な体験や、プロからの実際の経験を通じてのお話を頂くことができた。

このように、企業と学校が、「就職」のみの関係とならず、「教育」を通じ一体になれることにこの体験会のもう一つの意義があると考えている。これからも地域社会と一体となり、生徒にとっての貴重な学びの場の提供を継続していきたい。

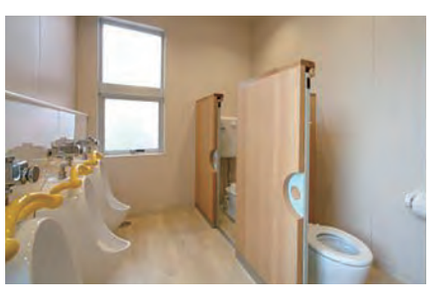
# 園児が安心に過ごせる環境作り―トイレのリニューアル―

静岡精華幼稚園　副園長　谷澤徳子

静岡精華幼稚園、現在の幼稚園園舎は、平成2年に建築されたもので、建築後33年が経過しています。この長い年月、子ども達の毎日の排泄を支えてくれたトイレも老朽化が進み、全面的な改修を行うこととなりました。とはいえ、改修を決めたものの右も左もわからない私たちにとっては、いろいろな方々の協力を得ながらのスタートとなりました。設計は針谷建築事務所、施工は静鉄建設株式会社に決定し、いよいよ改修工事が動き出しました。設計にあたり、便器の増設、扉をなくす箇所と引き戸にしてほしい箇所、床や壁の色等々、夢いっぱいの私たちの注文に一つ一つ本当に丁寧に向き合ってくださいました。建て替えではなく、改修工事なのでトイレ自体の広さは変わりません。その中で、できることには限りがあります。それでも私たちの希望を最大限取り入れてくださり設計をしてくださいました。

改修工事は年少のトイレから始まり年中、年長のトイレと進みました。年中、年長の改修時には、園庭に仮設トイレが設置されました。仮設トイレといっても水洗で便座も温かく、子供たちは不自由なく工事期間を過ごすことが出来ました。工事を請け負ってくださった静鉄建設さんも幼稚園での工事ということで細心の注意を払いながら工事を進めてくださり、令和5年2月末に完成となりました。令和3年にトイレ改修の予算請求を出してから長い年月をかけての完成です。

幼稚園のトイレといえば、子供たちが安心して園生活を送るための大切な場所です。いくらきちんと掃除をしてあっても、老朽化はどうにもなりません。今回長年の希望であったトイレがリニューアルされ喜んだのは職員だけではありません。完成したトイレを見て子供たちからワァーという歓声があがりました。温かく優しい色目のトイレは精華幼稚園の園舎のコンセプトでもある積み木のイメージです。年少のトイレはドアがなく、圧迫感がありません。年中、年長のトイレは年齢的な配慮をしドアはついていますが、高さを低くして大人の目が届くようになっています。床も木目調でとても清潔感があります。そして新しいトイレは座りこごちもよいようで、鼻歌を歌いながら長い間座っている子もいます。何より嬉しかったのは、今までトイレに行きたがらなかった子や、トイレに行っても出ない！と言っていた子がすんなりとトイレに行くようになり用がたせるようになったことです。やはりトイレの環境はとても大切ということですよね。朝、姉の登園に一緒に来てトイレに寄ることが習慣になっている弟もいます。新しくリニューアルされたトイレ、皆で大切に使用していきたいと思います。



バスケ部

# 女子バスケットボール部への思い

静岡大成中学校　教諭　吉永光希

私は、静岡精華中学校・高等学校バスケットボール部出身です。今年の二月、私にバスケットボールの炎を灯してくださった恩師が亡くなって、多くの先輩の方と連絡したり、会うことがありました。会って話すと、あの時はこうだった…と当然恩師を振り返る話ばかりが出てきました。その先輩方は、全国大会、東海大会と輝かしい結果を出されていて、尊敬する方ばかりです。このような先輩方が輩出された静岡精華でバスケットボールに関われたことを今でも光栄に思っています。

私自身は現在、母校の中学女子バスケットボール部の顧問として日頃活動させていただいています。若い頃はバスケットボール部の顧問をやれることに大変喜びを感じていました。しかし今では、年を重ねるたび、責任が重くのしかかってくることが多くなりました。一つでも多く勝たせなくては…結果を出さなくては…と気持ちばかりが焦ることもありましたが、恩師の葬儀の件で連絡した先輩方や葬儀でお会いした先輩方に「応援しているから頑張ってね」という言葉をいただき、尊敬する先輩方が応援して下さっているのなら、その先輩方のためにも頑張ろうと思えました。

今私は、静岡精華バスケットボール部の卒業生として、中学女子バスケット部の子どもたちに、バスケット自体も変わりつつある中、「精華のバスケは嘘をつかない」ということを証明してみたいと思う一心で指導をしています。どこかしらで「精華魂」が現代の部員たちに植え付けられたら、きっと私にバスケの炎を灯してくださった恩師も喜んでくれると思っています。また、私のもう一人の恩師も、現在一緒に高校顧問として活動しています。もう一人の恩師からもたくさんご指導いただき、ダメ出しもしていただくことで、自分をもっと成長させ、子どもたちに還元したいと思うのと同時に、先輩方に良い報告ができるようにしていけたらと思います。

静岡大成高等学校・中学校女子バスケットボール部は今、若手の顧問を加え、進化しようとしています。これからもぜひ応援していただけますようよろしくお願いいたします。

# 静岡産業大学と単位互換制度を締結しました

この春、静岡産業大学のキャンパスと本学のキャンパスで学生が相互に授業を受けることが出来るようになりました。昨年度から静岡産業大学との話し合いを重ね、3月7日に本学との単位互換締結に至りました。

単位互換制度の意義とは、カリキュラムの内容が豊富となり、受けられる授業の選択肢が広がり自由度が増すことにあります。そして、異なる雰囲気や違った角度から学びを受けることで、さらなる充実が図ることができることが大きなメリットとなります。

特徴としては、藤枝と焼津という隣接する地域にある大学であるということです。本学の学生が興味関心のある静岡産業大学の科目を受講することによって、学問の考えや視点の違いを実感することになります。

学生同士が他大学のキャンパスで授業を受けることで、知識を深めていくことが可能となることであり、自由な学びこそ単位互換制度の優位性ともなります。学生自身がより専門性を高くしたり、自分の研究の糧としたりすることで多くの可能性を広げる事ができます。

令和6年度からは、静岡大学人文社会学部・教育学部との単位互換制度を導入すべく、打ち合わせを重ねているところです。

大学ゼミ UNIVERSITY SEMINAR

# ふるさとジュニアカレッジ

●講師 **木戸直美**

木戸ゼミでは、健康教育・地域子育て支援・子育て支援プログラム・保護者支援等をキーワードに各自がテーマを設定して研究に取り組みます。

3年次より焼津市内の教育ボランティア「ふるさとジュニアカレッジ」での親子アウトドア活動（朝比奈川での川遊び・高麗祭など）のお手伝い、静岡県レクリエーション協会主催の親子運動あそび、近隣の子育て支援施設など様々な子育て支援現場に足を運び、実践力を高め、肌感覚を養いながら各自の研究テーマを選定していきます。フィールドワークや卒業論文執筆（10000字）などゼミ活動全般を通して、活発な議論を繰り広げれる人間性の向上を目指しています。そのためには、平素の報連相、互いの意見の相違を認め合える信頼関係の構築が大切であることをスローガンにしています。辛いこともあるかもしれませんが、木戸ゼミでの活動が輝く青春の数ページになることを祈っております。（笑）

# 最後のセーフティネット

●准教授 **田中秀和**

私は、2022年度後期より静岡福祉大学にてお世話になっております田中秀和と申します。

私の専門領域は社会福祉学のなかの公的扶助領域です。日本の公的扶助を代表する生活保護制度は、憲法第25条に定められた生存権を保障するための、最後のセーフティネットです。近年、自助や共助が賞賛される政策動向のなかで、生活保護基準の引き下げが行われるとともに、それを利用する方へのバッシングが全国各地で展開されています。このような流れを食い止め、すべての人々が健康で文化的な最低限度の生活を営めるようにするためにはどうしたらよいかについて研究しています。

また、ゼミ活動を通して学生には貧困問題は決して他人事ではないこと、ならびに公的扶助に関わる問題は個人の責任で解決するものではなく、社会問題であることをしっかりと認識していける人材に育ってほしいと考えています。学生の成長を後押しできるよう、これからも教育・研究活動に邁進していく所存です。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

## 6 ヒアリング

**（2022（令和4）年10月～2023（令和5）年4月）**

昨年度4月から9月までに6名の有識者の皆様から様々なご意見をいただき、10月以降はさらにお二人のご協力を得て事業を進めることが出来ました。今後は社会で活躍する卒業生の方々のご意見を伺っていく予定です。

**10 October**

**赤堀三代治氏**

**ARMS（アカホリ・リスクマネジメント・システム）代表**
**JAしみず代表監事**

組織の危機管理やガバナンス構築が専門で全国を舞台に活動。本学園報（2021秋号・2022年秋号）で紹介した「tomo」で働くR君の父親でもある。

**4 April**

**榎戸有以子氏**

**「パクチーワールド」主宰**

主に1人旅で、アジア・アメリカ・オセアニア・中東など様々な国々を巡る。2008年から2012年までタイに居住。現地でジャズ・ボーカリストとして活動。HSP（Highly Sensitive Person）の人がその概念に出会った心をつづった音楽動画「繊細なアヒルの子～The Sensitive Ducking～」を作詞・演奏。各地で講演活動を行っている。

# STUDENT hall

## 高校校舎設計にあたって―長谷川逸子 建築家

これは高校校舎完成前に設計者の長谷川逸子氏がPTA講演会でお話しされた内容のほんの一部です。(編集部)

スチューデントホール(1階)はみんなが集まって来てお喋りをするようなところで、音楽コンサートを100人くらい呼んでできます。だから専門家とか、卒業生の人にも来ていただいたり、生徒の発表会とか、町の人を呼んでやるといいと思います。平面的な大きなホールがとれないのでこういう階段ホールですが、7メートルくらいの幅です。そういうホールがありまして、階段になっているんで、そこでいろんなイベントとか、下をステージにして演劇をやってみんなに見ていただく。どこかへ出るためのレクチャーの練習をしてみんなに聞いてもらうとかいろいろなことに使ってください。今日はこう使いたいなどと。発表を自由に友達と先生集めてやるといいなあと思う。劇場として使うことは可能です。階段であるということは、またそれなりに使うといろんな事ができると思いますけど。

(雑誌「精華」第71号2004に掲載)

### はせがわ いつこ(58回卒業生)

●1986年　静岡精華中・高校研修センター(眉山ホール)で日本建築学会賞受賞●2003年　日本芸術院賞受賞(新潟市民芸術文化会館)女性建築家初の受賞　その他、公共建築の分野で数多くのコンペを勝ち抜く。王立英国建築協会名誉会員の称号も得ており国際舞台でも活躍している。

スチューデントホール(1F)

## 富士市と包括連携協定を締結しました

令和5年2月14日、本学は富士市と包括連携協定を締結しました。

これまで焼津市、藤枝市、島田市と同様の協定を締結しています。富士市周辺からおよそ200名余の学生が本学に学んでいますので、富士市に拠点をもつことは、学生・教職員の研究活動やイベント参加等がますます盛んになると同時に、地域の課題解決に貢献することが期待されています。

締結式後の富士市福祉部スタッフとの打合せでは、圧倒される程の熱量で本学と連携したい事業について、本学への期待を込めてたくさんの説明をいただきました。

各市との包括連携に係る取り組みは、まずは地域貢献が目的なのですが、併せて本学の認知度向上に資するための大切な活動でもあるのです。この協定が単に協定数を増やす実績づくりに終わらず、富士市等の地域課題解決の活動を通じて、本学の存在価値を高める事業になるように努めてまいります。